

## 平成25年度発掘調査遺跡の紹介

### 山口遺跡

(阿賀野市山口字城ヶ窪2899ほか)

山口遺跡は、JR水原駅の西、約1.5km先にあり、阿賀野川や旧小里川によって形成された標高約6mの自然堤防上に立地します。一般国道49号阿賀野バイパスの建設工事に伴い、平成20・22年度に本調査が実施され、弥生時代前期、古代（奈良～平安時代）、中世（鎌倉～室町時代）の遺構・遺物が見つっています。特に注目できるのは、平成22年度調査で見つかった古代の遺構で、材木列塀と呼ばれる区画施設と、その内外に規則的に立ち並ぶ掘立柱建物、竪穴建物などがありますが、材木列塀については建物群との同時性も含め、問題が残っています。古代においては、中核となる地点であったと思われます。また県内では初例となる、唐三彩（弦楽器・壺を模したもの）が出土したことで話題となりました。

今年度は居住域を含む東側の範囲を調査しています。試掘調査の結果では、地形が東側に向かって徐々に下っていくことから、調査区西側の居住域に隣接した、水田や畑などの耕作痕跡が見つかる可能性がありました。残念ながら、現段階までにそのような遺構を見つけることはできていませんが、今後も検討していきたいと思えます。

現在は22年度調査区の隣の居住域と考えられる部分を調査しています。遺物包含層は、耕地整理などによって削られて、ほとんど失われていましたが、わずかに残った部分から多くの古代の遺物が出土しました。遺物の時期は、9世紀前半にほぼ収まることから、短期間に存在した遺跡だったことがわかります。須恵器は杯類などの食膳具が多く、地元の五頭山麓窯跡群産と、佐渡小泊産が認められます。

遺構は古代・中世の掘立柱建物、井戸、土坑、溝などが見つかり、右の写真はその一部です。時期の異なる遺構が同一の面で見つかる場合も多く、今後構築された時期を検討していく必要があります。

(石川智紀)



古代の掘立柱建物の検出状況



古代の土坑の遺物出土状況



中世の漏斗状の掘り込みをもつ溝  
断面が漏斗状を呈し、上幅が2mを超える大型のものがあります

# 清水田遺跡

(上越市鶴町字清水田503ほか)

国道253号上越三和道路事業に伴い、平成25年4月から10月まで発掘調査を行う予定です。調査面積は3,600㎡です。平成15年に行った試掘調査で新しく発見した遺跡です。

遺跡は高田平野の中央部、飯田川左岸の沖積地に立地します。遺跡の標高はおよそ12.5mです。遺跡の現況は水田で、一部に火葬場跡もありました。

I層は現水田耕作土です。II層は近世以降の遺物包含層と水田耕作土です。III層が平安時代・中世・近世までの遺物包含層と水田耕作土です。中心は中世で鎌倉～室町時代です。水田の範囲のIII層下部には耕作による攪拌の痕跡が著しく残っています。

集落内には西端で掘立柱建物8号・302号の2棟を検出しました。掘立柱建物8号の西側は暗渠の一部にかかってしまったため、全体は検出できませんでしたが、総柱建物になる可能性があります。掘立柱建物302号は2間×3間(約17㎡)の大きさです。2棟の掘立柱建物の東側には自然流路301号を検出しました。浅い窪地状になっているのを生かし、北側の一部を水田に改変したようです。中央部南側は多数の柱穴・井戸・土坑・竪穴状遺構・溝等を検出しました。複数の掘立柱建物が建て替えを繰り返していたと考えられます。30基ほど検出した井戸は、直径1m前後の小さなものが多く、深さは0.7～1.7m前後ですべて素掘りです。土坑の一部には渡来銭が6枚入った土坑307号、珠洲焼の壺の一部を打ち欠いて入れた土坑317号、渡来銭1枚と礫3個を入れた土坑15号があります。これらは、骨などは見つかりませんが墓の可能性が高いと考えています。また、柱穴370号から出土した渡来銭71枚は、縹になっていたようで繊維の痕跡がわずかに残っていました。地鎮のために入れた可能性が高いと考えています。掘立柱建物の長軸方向や水田畦畔は北から約20度東に傾いており、集落と水田域の管理が統一的行われていたと考えられます。

出土した遺物は、土器・陶磁器類は平安時代の地元で焼かれた土師器・須恵器、中世は中国産の青磁・土師質土器・珠洲焼・瀬戸焼・美濃焼、近世前期の肥前系陶磁器・越中瀬戸・越前焼が出土しています。土器陶磁器類の大半は能登半島で大量に生産され、日本海東北沿岸から北海道、太平洋側は奥州平泉まで流通した珠洲焼(甕・壺・播鉢)と土師質土器です。近世前期の瀬戸焼とみられる天目碗の出土は、喫茶をたしなむ有力者の存在をうかがわせます。石製品では砥石、金属製品では銭貨・鉄滓があります。木製品では漆器碗・柄杓・箸などが出土していますが少数です。土坑や小穴から炭化米



柱穴370号銭貨出土状況(東から)



掘立柱建物302号検出状況(北から)



掘立柱建物8号完掘状況(北から)

の塊も2点ほど出土しています。

清水田遺跡は鎌倉～室町時代を中心とする集落と生産遺跡（水田）です。若干標高の高い掘立柱建物や多数の井戸を検出した西側から中央部南側が居住域で、集落の中心と考えています。遺構の分布状況から、遺跡は調査区外の南側にも広がっているようです。調査区の北～北東～東で検出した中世の水田畦畔は、南北方向は高まりがよく残っていました。畦畔に沿って一部に浅い溝や水口も検出しました。今回の発掘調査で高田平野に広がる中世の農村景観を知る手がかりが得られました。100m東側には同時期の<sup>しもむり</sup>下割遺跡もあり水田も検出しています。今後は周辺の同時期の集落の調査成果なども考慮し、整理作業をすすめていく予定です。

(佐藤友子)



土坑317号遺物出土状況(南から)



土坑15号遺物出土状況(北から)



土坑308号曲物出土状況(東から)



水田?01完掘状況(南から)



珠洲焼擂鉢(15世紀)



瀬戸天目茶碗(17世紀前半)



瀬戸・美濃焼卸皿



青磁碗(13世紀前半・15世紀)



現地説明会

# 越後国域確定1300年

弥生・古墳時代の新潟県



## 新潟県埋蔵文化財センターで開催する行事

### ■企画展「遺跡が語る弥生・古墳時代の越後」(平成25年9月13日～平成26年2月23日)

越後国域が確定した和銅5(712)年から1300年目に当たる平成24(2012)年からの継続事業として、平成25年度は時代をさかのぼり、弥生・古墳時代をテーマとしてイベントを開催しています。新潟県埋蔵文化財センターのエントランスホールにおいては「遺跡が語る弥生・古墳時代の越後」を企画展示しています。弥生～古墳時代は、稲作の導入、富の蓄積に伴って形成された部族連合から、畿内中央政権への統合といったダイナミックな変化期に当たります。企画展では県教育委員会が調査した遺跡出土品から選りすぐり、「人々の生活はどのように変化したか」「越後の特性は何か」が理解しやすいように、大きく5つのテーマを設けています。

#### I 縄文から弥生・古墳時代へ

#### II 墓から見た弥生・古墳時代

#### III 大地を耕して収穫する

#### IV 木の道具

#### V 新潟の手工業 — 宝石の生産 —

下の写真は展示品の一部です。弥生時代に導入された鉄器、完全な形に復元された土器、腐らず残った農耕具、ヒスイ製勾玉の製作工程など。この企画展示と県内他施設を見学することで、新潟の弥生・古墳時代が浮き彫りになります。この企画展でしか見られないものがありますので、是非、埋蔵文化財センターにお越しください。

(新潟県教育庁文化行政課 滝沢規朗)



上越市下馬場遺跡の鉄製品(弥生時代後期)



南魚沼市余川中道遺跡の土器(古墳時代中期)



胎内市土居下遺跡の大足(古墳時代前期)



糸魚川市南押上遺跡の勾玉製作工程品(古墳時代前期)

## ■リレー講演会

新潟県の弥生・古墳時代について概説します。

入館料・参加費無料ですが、**事前に参加申込が必要**です。電話・ファックス・メールのいずれかの方法で埋蔵文化財調査事業団にお申し込み下さい。

リレー講演会は申込が必要です。

**【お問い合わせ先】**

新潟県文化行政課埋蔵文化財係

電話：025-280-5620

FAX：025-284-9396

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/>

回	日程	会場	タイトル	申込受付
7	12月1日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「日本海ガラスロード」	9/2～11/29
8	1月19日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説③新潟県の古墳時代中期～後期」	9/2～1/17
9	2月2日(日)	新潟県埋蔵文化財センター	「概説④新潟県における古墳時代の終焉」	9/2～1/31

## 第19回遺跡発掘調査報告会開催のお知らせ

平成23・24年度に発掘調査した遺跡を紹介する「第19回遺跡発掘調査報告会」を開催します。出土品の展示・解説と、映像を用いながら調査結果の報告を行います。**参加費無料・申込み不要。**

皆様のご来場を心からお待ちしております。

### 【日程】(予定)

- 10:30 出土品展開場 (2階 県民サロン)
- 12:00 ホール開場・受付 (多目的ホール)
- 13:00～15:20 報告会
  - 13:10 町上遺跡 (魚沼市)    13:40 六反田南遺跡 (糸魚川市)
  - 14:10～14:20 休憩
  - 14:20 二反割遺跡 (上越市)    14:50 小船渡遺跡 (新発田市)
- 16:00 出土品展終了

**【期日】平成25年11月17日(日)**

**【会場】新潟ユニゾンプラザ**

〒950-0994

新潟市中央区上所2丁目2番2号

電話：025-281-5511



町上遺跡 出土品



大坂上道遺跡 出土品



六反田南遺跡 列石



小船渡遺跡 井戸

### 【交通】

バス：新潟駅 万代口 発 (新潟駅前ターミナルのりば12番線)  
 水島町経由美咲合同庁舎行 約10分  
 県庁前経由西部営業所行 約10分  
 県庁前経由曾野木ニュータウン・嘉木・酒屋車庫・小須戸行 約20分  
 駐車場：一般220台 障害者専用10台



Copyright(C) Niigata Unison Plaza. All Rights Reserved

## 県内の遺跡・遺物82

## 国指定史跡佐渡金銀山遺跡 佐渡奉行所跡

(平成6年5月24日指定)

(所在地:佐渡市相川広間町1番地1)



佐渡は、『今昔物語集』や世阿弥の『金島書』で記載されているように、古代から「金の島」として知られ、西三川砂金山・新穂银山・鶴子银山・相川金銀山等を構成資産とする「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」は、世界遺産暫定リストに記載され、新潟県と佐渡市では世界遺産登録を目指しています。

これらの金銀山を支配する佐渡奉行所は、佐渡代官大久保長安により、慶長8(1603)年、鶴子银山にあった陣屋を相川に移転して建てられものです。この陣屋は、現在の敷地の2倍近い広さを持ち、書院造りの建物や茶室など贅を尽くしたものとされていますが、長安没後棄却され、元和4(1618)年に建て替えられました。佐渡奉行所はたびたびの火災で焼失(1647・1748・1799・1848・1858)、その都度再建されてきました。安政6(1859)年に再建された佐渡奉行所は、明治維新後も役所や学校として利用され、昭和4(1929)年、国史跡に指定されましたが、昭和17(1942)年に焼失し、指定が解除されました。

平成6(1994)年、「佐渡金山跡(現佐渡金銀山遺跡)」の一つとして国指定史跡となり、同年より平成10年まで発掘調査が行われ、平成12年度に発掘調査や絵図・古写真等の史料を基に、安政年間の佐渡奉行所(御役所部分)が復原されました。

発掘調査によれば、佐渡奉行所跡は、敷地の南北で段差があり、南側上段には御役所・陣屋・役宅・御金蔵などが設けられ、北側下段には寄勝場と呼ばれる選鉱を行う場所が設けられていました。また、寄勝場の北側には寄床屋と呼ばれる製錬作業を行う工場が設けられていました。小判を製造する後藤屋敷は、現相川病院付近に置かれていました。

遺構は、上段部分で御役所の礎石や石畳・大御門等の建物跡、武具蔵、井戸跡といった建物跡のほか、敷地南西端で長竈・丸竈・中仕切竈といった製錬炉跡群、御金蔵跡北側では、埋納された172枚の鉛板が発掘されています。下段部分では、寄勝場の柱穴や井戸跡、排水路等の遺構が検出されたほか、勝場で使用された船と呼ばれる木製の水槽が設置された土坑が26基確認されています。

出土遺物は、肥前系陶磁器・中国産陶磁器・瀬戸美濃焼・備前焼などの陶磁器類のほか、鉛板などの金属製品、荷札木簡や舳などの木製品、石磨・扣石などの石製品などが出土しているほか、製錬炉跡群周辺では、焼金法など、製錬の際に使用されたと考えられる棒状土製品・盤状土製品・板状土製品等が出土しています。平成23年6月、これら出土遺物のうち928点が重要文化財に指定されています。

(佐渡市世界遺産推進課 濱野浩)



佐渡奉行所跡発掘調査



佐渡奉行所(復原)



鉛板(重要文化財)

長さ60~70cm、幅約30cm、重さ35~48kg

陶磁器類・金属製品・木製品等  
(重要文化財)

## 埋文にいがた No.84

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団  
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1  
TEL (0250)25-3981  
FAX (0250)25-3986  
E-mail: niigata@maibun.net  
URL: http://www.maibun.net  
印刷 阿部印刷株式会社